

# HiR ニュースレター 第2号

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

November, 2010

広島大学の学術研究成果を発信する「広島大学学術情報リポジトリ」と、オープンアクセスに関するニュースをお届けします。

## 第2号 コンテンツ

- 研究室訪問 第1回 佐々木勇教授
- オープンアクセスウィーク開催
- シリーズ・リポジトリFAQ 第1回 「雑誌論文の登録」
- お知らせ

## ■ 研究室訪問第1回 佐々木勇教授 (大学院教育学研究科)

研究成果公開のプラットフォームである学術情報リポジトリ、その運営には研究成果の生まれる過程を知ることが必要、と考  
え、図書館では、定期的に先生方の研究室を訪問し、研究内容やリポジトリへのご意見を伺っています。  
ここでは、その一部をご紹介します。第一回は、大学院教育学研究科言語文化教育学専攻の佐々木勇先生です。



**佐々木勇教授**  
オープンアクセスウィークの  
バッジを、胸につけて  
下さっています！

**Q:佐々木先生の研究テーマ「日本漢字音の歴史的研究」について概要を教えてください**  
日本には大量の古文献が残っています。中には海外に流出したものもありますが、平安時代初期から残る漢字の音を記入したものを時代的に並べて、どう変わったのか、その歴史をたどる研究です。漢字音はもともとは中国語で、外国語音がどう溶け込んでいったのか、また、外国語音を受入れることで、日本語がどう変わったかを明らかにしたいと考えています。

**Q:研究はどのような手順で行われていますか？**  
まずは自分でデータベースをつくります。古文献の複製本などからテキスト化を行い、その入力作業のなかで気づいたことを深く調べていきます。広島大学にも貴重な資料が多くあるので、その画像が電子化されるとありがたいです。

**Q:研究成果の発表について、紀要や学会誌が中心ですか？それとも図書が中心ですか？**  
日本語学の分野では、発表した論文をまとめて図書にするのが普通です。分野によっては、専門的なことは論文に書き、一般向けに図書、というところもありますが、日本語の歴史の分野では多くないですね。

**Q:日本語学分野の学会で学会誌の電子化などの話は出ていますか？**  
私の所属する、日本語学会、訓点語学会、日本音声学会では、紙の雑誌を電子化して見られるようにすることや、最新のものを会員のみ公開し一定期間をおいて電子版を公開する、といったことは行われていますが、紙媒体をやめる、という話はないです。学会員以外の方が、学会誌に掲載された論文を読むことについては、運営上難しい点もあるとは思いますが、個人的には全部公開したらよいと思っています。私たち研究者は、一人でも多くの人に読んでもらうために研究を発表しているのですから。

**Q:日本語学分野の研究者や学生に、リポジトリをもっと活用してもらうためのアイデアがあれば教えてください。**  
学生はリポジトリを使っていますよ。でも、逆にそれしか見てないという問題がおこっています。CiNiiでも、原論文がプリントアウトできないものは、そこでやめてしまって、学部生などは図書館の書庫に雑誌を見に行こうとしないです。また、今の学生は出版されたものしか見ない傾向もあるので、博士論文の登録がもっと進んでほしいと思っています。そして、学生が研究者になって論文を書き、リポジトリに恩返しをするようになるといいですね。

**Q:広島大学学術情報リポジトリについてご意見、アドバイスをお願いします。**  
もっとリポジトリの重要性を大学に理解してもらい、担当者も増やしてもらって大きくすべきですよ。図書館あつての大学です。人は居ても30年ですが、図書はずっと残ります。電子化した資料も永遠に保存されるのだから、リポジトリには期待しています。



# オープンアクセスウィーク開催



オープン・アクセスとは、学術研究活動の成果をインターネットを通じて無料で公開し、世界中の人々が対価なくこれを楽しむことができるようにすることです。

今年で4回目を迎えるオープン・アクセス・ウィーク(Open Access Week: OAW)は、アメリカのSPARCが主催しているイベントで、世界的に展開されており、日本からも多くの企画が参加しました。

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?OAWWeek%202010>

広島大学でも、広報(ポスター・三角柱)および、連日、4名の先生方に研究成果公開に関する考えを伺う、インタビューマラソンを開催しました。

写真右: マーメイドカフェにて  
写真下: バッジ

OPEN ACCESS WEEK

OCTOBER 18 - 24, 2010 | EVERYWHERE

LEARN. SHARE. ADVANCE.



# シリーズ・リポジトリFAQ 第1回 雑誌論文の登録



リポジトリでは、雑誌論文・学内紀要・報告書・学位論文など、多様な種類の学術成果を公開しています。図書館では、これらのコンテンツ数を拡充し、より多くの方に役立てていただくため、先生方に論文等のご提供をお願いしています。ここではリポジトリ業務について寄せられたご質問とその答えを掲載いたします。

Q: 図書館からこんなメールが届いたけど、どうすればいいの? 僕が許可していいの?



件名: リポジトリへの論文登録について

下記の論文は、電子ジャーナルファイルをリポジトリから公開することが認められています。この論文を図書館でリポジトリから公開してもよろしいでしょうか。

1. 論文タイトル1  
掲載雑誌名, 巻号, 発行年
  2. 論文タイトル2  
掲載雑誌名, 巻号, 発行年
- 電子ジャーナルファイルの入手やリポジトリへの登録はすべて図書館で行います。

A: 掲載雑誌の発行者(出版社や学会等)が、リポジトリでの電子ジャーナルファイルの公開を認めているもの\*をピックアップし、著者の皆様に許諾のご依頼をしています。公開可能なものを選択して返信ください。図書館で登録と公開作業を行います。ご協力よろしくお願いいたします。

\* 公開を認めている発行者には、American Institute of PhysicsやBioMed Central、日本機械学会などがあります。

## シンポジウム

### 学術情報流通の危機を考える: 電子ジャーナル・出版・機関リポジトリの現在と未来

研究者・大学・出版等さまざまな側面から学術情報流通の現状と課題を共有し、学術研究を支える学術情報基盤の今後の安定的な維持についての活発な議論の場とすることを目的としています。学術情報に関わる多くの方のご参加をお待ちしています。

【日時】平成22年11月29日(月)13:30~17:00 【会場】広島大学図書館ライブラリーホール

- ・開会挨拶/浅原利正(広島大学長)
- ・講演/安達淳(国立情報学研究所学術基盤推進部長)  
「電子ジャーナルがもたらす新たな問題: 研究情報の共有と流通のこれからを考える」
- ・講演/永井裕子(日本動物学会事務局長) 「学術情報流通の近未来: 学会出版から考える(仮)」
- ・報告/石井道悦(広島大学副図書館長) 「電子ジャーナル・機関リポジトリ 広島大学の現状」
- ・パネルディスカッション/司会: 佐藤正樹(広島大学図書館長)

パネリスト: 安達淳、永井裕子、戸田昭彦(広島大学総合科学研究科教授)、玉木徹(広島大学工学研究院准教授)

▼申し込み <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/2010symp.html> 問合せ先: 広島大学図書館学術情報企画グループ

おしらせ

HiRニュースレター 第2号 平成22年11月発行 広島大学図書館

学術情報リポジトリ担当: tosho-seibi-repo@office.hiroshima-u.ac.jp

※本誌は、<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/newsletter/> でご覧いただけます。